

学 内 報 告

機械・材料・海洋系学科
機械工学EP代表
于 強

過去3年間、新型コロナウイルスの影響により、私たちの学科は大きな変化と挑戦に立ち向かいましたが、大学活動も進化しながらやっとなり本来の状況にもどりつつあります。まずは昨年度の話となりますが、大学入学者選抜試験が2月、3月に通常通り実施されました。幸いにして、志望者は、前期278名（募集定員74名）、後期500名（募集定員66名）と去年と2年前に比べると大幅に増え、コロナの前の水準に戻っていると言えます、最終的には、機械工学EPでは113名（定員106名）、材料工学EPでは41名（定員42名）の新入生を受け入れることができました。

大学の授業なども去年と同様通常通りの対面開講を行うことができています。また、コロナが流行している間に確立されたオンデマンド開講の仕組みも引き続き活用され、特に国際議などに参加する先生方によく利用されています。休講や補講などを行う必要はないため、学生からの好評が得られています。

就職と進学の事情ですが、コロナの期間においても本学科の卒業生の就職はほとんどその影響を受けていせんでした。令和5年3月の卒業生の就職と進学についても、機械系、材料系ともに大学院を含めて良好な状況が維持されています。これは、卒業生諸氏のご活躍の賜物であると感謝しております。

近年大学の活動に関して外部の評価の重みが

増えつつあります。ここで機械工学EPの教員がMITでの経験を参考して考案されたROUTE（Research Opportunity for Undergraduate TEs）の活動について紹介します。これは学部学生が各研究室の最先端の研究に1年生から参加できるプロジェクトです。たとえば、機械工学EPでは、1年生の秋学期から希望者が半年間の研究活動に参加することができ、継続もできます。また、理工学部において更に研究予算の付くROUTEplusプロジェクトも展開されています。今年度の理工学部の運営諮問会議において、ROUTE学生自身の自己評価及び外部発表（学会発表や学術論文の発表など）や受賞等の実績など（R4年度実績（ROUTE学生の外部発表：33件、ROUTE学生の受賞：4件、ROUTE学生が論文著者に含まれた回数：筆頭2件、筆頭以外3件）が審議され、その成果が高く評価されました。機械工学EPにおいてR5年9月26日にROUTEの成果発表会（6名の発表者）が実施され、発表者から最優秀研究発表者と優秀研究発表者を1名ずつ選考され、表彰されました。

最後に、教職員の状況について報告します。令和5年度において在籍している教授、准教授、講師に関して機械工学EPは29名、材料工学EPは9名です。また在籍している若手の助教と特別研究教員に関して機械工学EPは3名、材料工学EPは1名です。去年と同様材料系の梅澤修教授が工学研究院長・理工学部長、機械系の眞田一志教授が理工学長として引き続き務められています。